

令和7年度 事業実施報告書

一般社団法人 北陸地域づくり協会

事業名 (個別メニュー)	けんせつフェア北陸2025in新潟	事業経緯	継続	実施体制	実行委員会	担当所属	技術調査室
事業名 (大項目)		分類名 (中項目)	技術開発支援事業			事業区分	技術開発、研究開発

1. 事業目的

本事業は、産・学・官の優れた建設技術を一堂に集め、建設技術者の技術の研鑽・高揚並びに技術情報の交流の場とすることで、建設技術の一層の高度化、広範囲な技術開発の促進を図り、新技術・新工法の積極的な活用促進、建設技術を活かした地域づくりや担い手確保に繋がる広報を目的に開催する。

2. 事業実施体制

主催:「けんせつフェア北陸2025in新潟」実行委員会(25機関・団体)
 国土交通省北陸地方整備局, 新潟県, 富山県, 石川県, 新潟市
 東日本高速道路(株)新潟支社, 東日本高速道路(株)新潟支社, 中日本高速道路(株)金沢支社
 (一社)日本建設業連合会北陸支部, (一社)日本道路建設業協会北陸支部
 (一社)新潟県建設業協会, (一社)富山県建設業協会, (一社)石川県建設業協会
 (一社)日本建設機械施工協会北陸支部, (一社)北陸土木コンクリート製品技術協会
 (一社)建設コンサルタツ協会北陸支部, (一社)建設電気技術協会北陸支部
 (一財)日本建設情報総合センター北陸地方センター, 北陸地質調査業協会
 (一社)日本埋立浚渫協会北陸支部, (一社)新潟県融雪技術協会
 (一社)日本橋梁建設協会北陸事務所, (一社)プレストレスト・コンクリート建設業協会北陸支部
 北陸PC防雪技術協会, (一財)新潟県建設技術センター, (一社)北陸地域づくり協会
 共催:「北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会」(教育機関等42機関・団体)
 協賛:東北電力(株)／北陸電力(株)／東京電力ホールディングス(株)
 後援:25機関・団体(官公庁、学校、マスコミ、建設関連団体など)

3. 事業実施概要

日時: 令和7年10月1日(水)10:00～17:00 / 10月2日(木)9:00～16:00
 場所: 新潟市産業振興センター
 開催テーマ(キャッチフレーズ): ミライへ加速インフラDX!
 展示内容:
 ・民間企業の新技術(有用な技術含む)・新工法の紹介・展示
 ・インフラDX関連技術の展示・実演
 ・北陸地方整備局、自治体等の公共事業の紹介・展示
 ・学校(大学)の研究開発の紹介・展示
 ・出展技術プレゼンテーション(66出展者) Youtubeによる公開
 ・担い手確保(リクルート関連)の取り組み
 学校招待(新潟県内5校:148名)
 合同企業セミナー(学生:74名)
 企業情報コーナー(101出展者)
 出展規模: 176出展者、528技術(インフラDX関連 166技術:約3割)
 来場者: 2日間のべ5,896名(過去3番目に多い来場者数)

4. 事業実施による効果(評価・貢献度等)

1993年より隔年で開催しており17回目となった今回は、176出展者・528技術といずれも過去最高の出展数を記録。「ミライへ加速インフラDX!」のキャッチフレーズのもと、展示技術の3割以上にあたる166技術がインフラDXの関連技術であった。
 屋外展示会場では「みて、ふれて、知る 新技術・新工法」のサブタイトルに沿い、ICT建設機械等による遠隔操作等の実演・体験が行われ、多くの来場者が関心を示していた。
 出展技術のプレゼンテーションは前回に引き続き、Youtubeによるプレゼンテーションを行い、開催PRとして、開催2週間前からホームページに公開し、のべ1,800回の視聴数を記録した。担い手確保の情報発信として、地元の学校から約150名を招待し、新潟県内企業による学生向けの「合同企業セミナー」を行った。
 学生の8割以上が「非常に良かった」とし、「各企業の活動や詳細について、興味を持つきっかけになった」「多数の企業が出展し、進路選択の参考になった」など、本事業の目的である担い手確保に繋がる成果が十分に感じ取れた。
 来場者は、9割以上が「次回以降の開催を望む」回答であり、出展者でも「他企業の新技術を観覧、非常に有意義なイベントであった」などの意見があり、9割以上が「次回以降も出展を望む」結果となり、来場者・出展者ともに大変有意義な事業であったことが伺える。

